

データから読み解く、井原の子どもたち

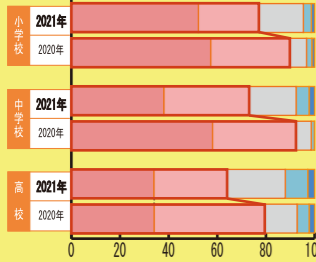
2019年から、井原市内の学校に通う小学生・中学生・高校生を対象にアンケートを実施しました。コロナの影響を受けながら、子どもたちはどんなことを感じているのか見ていきましょう。

井原の子どもたちの幸福度

コロナ禍で主観的幸福度が低下する中でも、対面でのコミュニケーションで幸せだと感じていることがわかりました。

東北大学 滝崎之教授の監修のもと、幸福度・知的好奇心について調査

Q. ささやかながら、日々「幸せ」、あるいは「楽しい」と感じていますか
 ◎とてもあてはまる □まあまああてはまる
 ○どちらでもない □あまりあてはまらない ×まったくあてはまらない



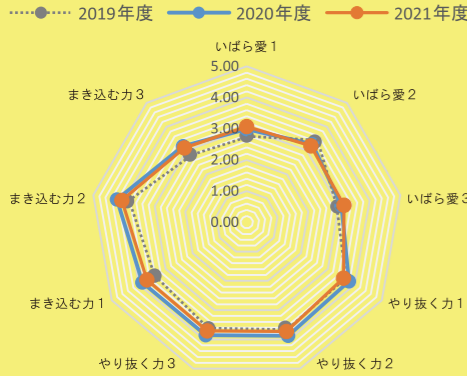
肯定的な回答は、小学校・中学校で7割を超え、高校では6割を超えています。2020年と比較すると減少しており、コロナの影響を受けていることが考えられます。また、どんなときに「幸せ」や「楽しい」と感じるかの項目に関しては、全体では「遊ぶ」「友達」「話す」「休み時間」「家族」などの言葉が多く見られました。ステイホームや活動自粛の中でも、対面でのコミュニケーションで幸せや楽しさを見付けていることがわかりました。小学校・中学校では、鬼ごっこや給食、部活、音楽等が見られ、高校では問題が解ける、達成などで幸せや楽しさを感じる傾向がわかりました。

井原の子どもたちの井原“志”民力

コロナの影響を受け、2020-2021年度が全体的に低くなる傾向がある中、いばら愛(1・3)が向上していることがわかりました。

岡山大学 中山芳一准教授の監修のもと、井原“志”民力について調査

井原“志”民力の行動指標に対する自己評価結果
 小中高での段階評価を平均値で算出し、3年間の変化を可視化

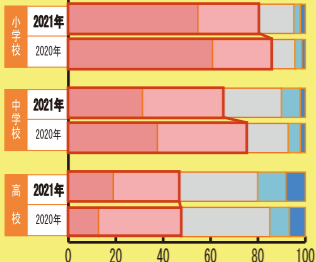


全体的な結果としては、2019年から2020年は自己評価が高まりましたが、2021年には特に他者との交流に関わる項目で低くなる傾向が見られました。コロナ禍での活動自粛の影響で他者との協働や交流が制限されたことが大きく影響していると考えられます。校種別に見ると、小学校は、いばら愛の自己評価が最も高く、3年間を通じてまき込む力の伸びが最も大きい結果となりました。中学校は、コロナの影響が大きい傾向となり、まき込む力の自己評価が高まった結果となりました。高校は、コロナの影響が少ない傾向となり、いばら愛の自己評価が高まった結果となりました。

井原の子どもたちの地域への想い

井原のことが好きか、何に魅力を感じているのかを調査した結果、自然や食材、そして授業や地域で関わった大人たちに魅力を感じていることがわかりました。

Q. 井原市や自分が住んでいる地域(学区)のことが、好きですか
 ◎とてもあてはまる □まあまああてはまる
 ○どちらでもない □あまりあてはまらない ×まったくあてはまらない



どの校種でもやや減少したものの、肯定的な回答は小学校で8割、中学校で6割、高校で4割を超えており、高校では「とてもあてはまる」の割合が約6%増加しています。肯定的な回答の理由では、「優しい」「自然」住みやすい」「星がきれい」「豊か」などの言葉が多く見られました。また、井原の「もの」「ひと」「しごと」の魅力に関する項目では、自然や農産物やデニム、偉人(馬越恭平、平藤田中、阪谷朗彦等)、地域の方、祭り、イベント、マルシェなどが見られました。学校と地域が一体となり、授業や地域活動をよりよくしようと取り組んだ活動の成果が、子どもたちの心に残っていることがわかります。

ともに未来を創り出す井原市のひとつづくり事例

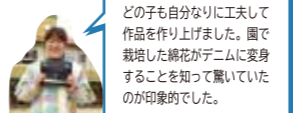
井原市では、学校においては「地域とともにある学校づくり」を、地域においては「学校(子ども)を核とした地域づくり」を目指し、学校と地域が連携・協働して地区や世代を超えた交流の場を創り出しなが、ひとつづくりに取り組んでいます。

Topic 高まった力は いばら愛 井原市内の幼稚園

幼児のときから井原の本物にふれて遊ぶ

単元 井原デニムを活用した非認知能力育成プログラム

市内幼稚園では、井原デニムを活用した遊びやものづくりを積極的に取り入れています。地域にある本物の素材や道具にふれながら、非認知能力の育成につなげる活動として「aeruaschool井原版」を作成し、クリスマスリースや写真立てなど、各園や地域の実態に応じて、様々な活動が実施されています。



出部幼稚園 石原先生



井原デニムで作ったポシェット



井原デニムを使ったボール遊び



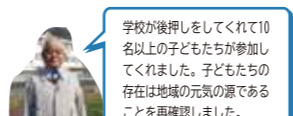
栽培した綿花で作ったカップケーキ

Topic 高まった力は いばら愛 稲倉小学校区ひとつづくりネットワーク運営協議会

地域のにぎわい「稲倉朝市」を子どもたちが活躍する場へ

活動 稲倉朝市での起業・販売体験

地域で子どもたちが活躍する場をつくろうと『朝市お手伝い隊員』を募集。5・6年生有志が稲倉朝市に参加して販売活動などを実施。朝市への児童の参加は初めてでしたが、地域の方へ元気の良い声を届けることができ、子どもたちにも地域の方にも好評でした。



いきいき稲倉まちづくり協議会 小寺さん



販売ブースでの接客



お手伝い隊員募集チラシ



販売ブースでの盛り付け作業

Topic 高まった力は やり抜く力 井原市立県主小学校

体験した魅力を体験できるウォークラリー実施

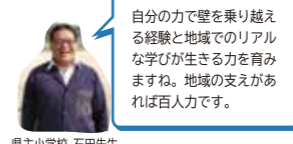
単元 県主の未来について考える | 5年生

県主の魅力を広く伝えたいという願いから、地域で作られているかかしについて調べ、関わっている方の想いにふれながら、児童自ら地元にある「かかしを巡るウォークラリー」を企画・実施したり、他校の友達に紹介したりするなど、地元のよさを内外に発信しました。



学区のかかしをまとめた地図を作成

おかやま学びたい賞 最優秀賞



県主小学校 石田先生



かかし作りに挑戦



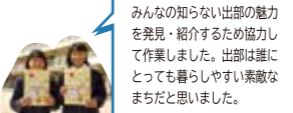
かかしコンテスト会場で参加証を配付

Topic 高まった力は いばら愛 井原市立出部小学校

小学生ならではの視点でふるさどを見つめ直す

単元 出部魅力発見プロジェクト | 6年生

自分たちが住む出部地区を「歴史・遊び・食・謎」の視点から見つめ直し、実際に地域を巡ったり、本やゲストティーチャーのお話を参考にしたりしながら、発見した魅力を冊子にまとめて発刊。ふるさとのことを改めて理解するとともに、地域に対する愛着を深めるきっかけになりました。



出部小学校 細谷さん、徳原さん



魅力を探して地域巡り



書籍を活用した調べ学習



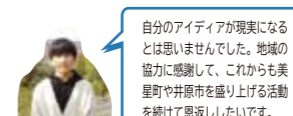
出部の魅力が満載の冊子が完成

Topic 高まった力は まき込む力 美星中学校区ひとつづくりネットワーク運営協議会

中学生も参画する熟議でよりよい地域へ

活動 ひとつづくりネットワーク懇談会を通じた地域学校協働活動

協議会で設定しためざす子ども像「美星を誇れる子」の実現に向け、3つの部会で取組内容を検討。話し合いには中学生も地域の一員として参加しました。地域と学校、子どもと大人の連携・協働により、多くの魅力的な活動が始まっています。



美星中学校 藤原さん



懇談会で地域の方と意見交換する



生徒発案の『映えるバイクスタンド』製作



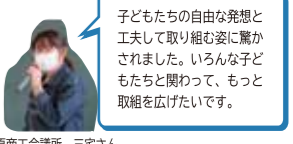
挨拶用たすきとスクールバス用啓発マグネット

Topic 高まった力は やり抜く力 井原市立西江原小学校

被服組合とともに井原デニムの魅力発信

単元 井原デニムのひみつ | 3年生

市の特産品「井原デニム」について調べたり、工場見学や綿花の栽培に取り組む中で、井原被服協同組合が行う「綿いっぱい運動」へ参画。児童が発案したオリジナルキャラクターを活用したチラシやポスターを制作するなど、「綿いっぱい運動」の拡大につながる活動を積極的に行いました。



井原商工会議所 三宅さん



調べたことをまとめて下級生にプレゼン



ハートフルデニムバックの魅力をもとめたパンフレット



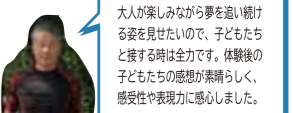
児童が発案したオリジナルキャラクター

Topic 高まった力は まき込む力 井原市立芳井中学校

地域の方のワーク&ライフを学校にしながら体験

単元 しごとに関わろう | 2年生

事業所に向く「職場体験」がコロナで中止となり、代替活動として地域の方をゲストに招いたワークショップ体験「ワーク&ライフ・チャレンジデイ」を開催。整髪やフラワーアレンジメント、写真撮影などの実体験を通して、人生観や職業観について多くの学びを得ることができました。



井原Lovers 三宅さん



整髪・変身体験



撮影・インタビュー体験



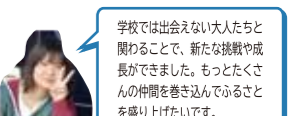
フラワーアレンジメント体験

Topic 高まった力は まき込む力 ゆめこ☆Lab@井原

学校や地域をこえた繋がりでふるさとを盛り上げる

活動 市内高等学校の連携と高校生の夢・志実現

市内高校に通う有志生徒が集まり、高校生の視点を取り入れたまちづくりや夢づくりにつながる取組を展開しています。市が取り組む「学生エール便」や「ふるさと納税」の魅力化に関わったり、ふるさとの魅力を発信するミニツアーの実施やイベントへの出店などを行っています。



県立井原高校 河合さん



井原を離れて暮らす大学生へのメッセージカードをデザイン



「美星豚の角煮」の商品開発・試食販売



美星天文台の見学